

## 文化・芸術

### 「初雪」

1940年ころ、絹本彩色  
52・7寸×61・7寸

上村松園 (1875〜1949年)

あけましておめでとうございます。今回は、新春にふさわしい作品をご紹介します。

傘を持った着物姿の女性が、ちらちらと舞う雪を見つめています。初雪はすでに積もっているのでしょうか。足元は描かれていませんが、傘の白さから積雪の様子を想像することができます。雪と同じ白い肌の女性は、寒さのためか手を袖から出さずに傘の柄をつかんでいます。

浮世絵を熱心に模写し学習していた松園。自らも近代に生きる女性であった松園の描く女性像は、自立していて品格があり、それまでの表面的な美しさが際立つ男性目線の美人画とは異なった魅力があります。

1月26日(土)、大川美術館では講演会「着物で読書」を開催します。着物で来館いただいた方は入館料が半額となります。ぜひご参加ください。(池田)

《名画の扉》

大川美術館常設展から

